



林 明敏議員
(市民クラブ)



訪日外国人旅行者について

問 県では、成田空港ターミナル内に観光情報窓口を開設し、体験観光プログラムを提供するなど、外国人旅行者を県内へ誘客する新年度予算を計上した。

どこの市町にもすばらしい特徴がある。匝瑳市だけでなく、近隣市町と協力して外国人旅行者誘致を行ってはどうか。

答 「市長」 各自治体、県、空港会社、旅行会社等と連携しながら協議を進めていきたい。

防災訓練について

問 津波被害が想定される野田・栄・共興地区の市民の防災訓練への参加状況を伺う。

答 「総務課長」 令和5年度の参加状況は、野田85人、栄27人、共興45人。平成28年度は野田が84人、栄が42人、共興が92人。

問 この参加人数は少ないと思うが、防災意識をどのように向上させていくのか。

答 「総務課長」 訓練内容等を工夫し、市民の参加促進に努めてまいりたい。能登半島地震のとき、建物の耐震化の重要性を強く感じた。人命

に係わることなので、大変危機感を持っている。

木造家屋の耐震診断について、無料でできる簡易診断の制度を検討してはどうか。

不登校について

問 千葉県も不登校児童数が、昨年過去最多となった。匝瑳市の状況と対応について伺う。

答 「教育長」 不登校児童生徒数は全国的に増加傾向にあり、令和4年度の全国の不登校児童生徒数は29万9,000人となり、過去最多を更新した。全国と同様、本市でもコロナ禍を契機に増加傾向にあり、不登校を理由に30日以上欠席している児童生徒は、令和4年度は小学生21名、中学生39名となっており、教育委員会としてもその対応に注力している。

耕作放棄地について

問 市内における耕作放棄地の状況はどうか。

答 「農業委員会事務局長」 令和5年3月末の耕作放棄地の面積は、190ヘクタールとなっている。

公共施設の管理について

問 野栄ふれあい公園のウォーキングロードは利用者が多く、舗装の劣化が進んで危険である。早急に対応を。

答 「市長」 改修時期や財源について調査研究してまいりたい。



武田光由議員
(公明党)



認知症について

問 学校やイベントなどで認知症に対する正しい理解と気遣いの大切さへの認識を深めるための広報活動を積極的に展開すべきと考えるが、市の見解を伺う。

答 「市長」 本市の取組として、9月の認知症理解促進月間において、広報そうさに認知症をテーマにした特集を毎年掲載しているほか、認知症の状態に応じた対応方法等を示したパンフレットを住民や民生委員等に配布し、周知啓発に努めている。

また、認知症についての正しい理解、対応等を学んでいただくため、認知症サポーター養成講座を地域住民や民間企業等に対し、年間15回程度開催している。

今後、認知症への正しい理解を深めるための情報発信、啓発に取り組んでいく。

带状疱疹ワクチンについて

問 ぜひ1年以内に带状疱疹ワクチン接種の費用助成をしていただきたい。

答 「市長」 ワクチン接種の費用助成については、国の動向、近隣自治体の実施状況を踏まえつつ、今後接種の費用助成の実施に向けて、検討してまいりたい。

5歳児健診について

問 健やかな子育てには切れ目のない支援が必要。こども家庭庁が発足し、5歳児健診の事業費の半分助成が出るということになったとのことで、市として5歳児健診についてどのように認識しているか。

答 「健康管理課長」 国が全国の自治体で5歳児健診の実施を目指すというところで、市としても今後の実施に向けて検討してまいりたい。

難聴者サポートについて

問 耳が聞こえにくい高齢者や難聴の方と円滑にコミュニケーションが取れるようにするため、市役所の窓口などに難聴者の会話をサポートする軟骨伝導イヤホンを導入してはどうか。

答 「高齢者支援課長」 耳が聞こえにくい来庁者の利便性向上や、筆談や別室で対応するケースが減ることで職員の仕事軽減効果も期待できる。

なお、製品化されて間もない状況なので、先進事例等を調査し、高齢者支援課において試験的な導入を検討したい。